

事後調査の結果

調査項目 水質（工事の施行中）

予測した事項 ア. 切土工等又は既存の工作物の除去に係る水の濁り

1. 予測した事項及び予測条件の状況

環境影響評価書においては、公共用水域へ排水することを予測の前提条件とした。本調査期間においては、下水道へ排水する工事箇所のみであったため、切土工等又は既存の工作物の除去に係る浮遊物質量（SS）及び工事の施工状況の調査は実施せず、環境保全措置の実施状況の調査を実施した。

2. 環境保全措置の実施状況

（1）調査事項

調査事項は、環境保全措置の実施状況とした。

（2）調査地域

調査地域は、環境影響評価書における切土工等又は既存の工作物の除去に係る水の濁りの予測地域のうち、品川駅及び目黒川変電所とした。

（3）調査手法

① 調査時点及び期間

調査時点及び期間は、表 4-1-1 に示す調査期間中の適時とした。

表 4-1-1 調査期間等（環境保全措置）

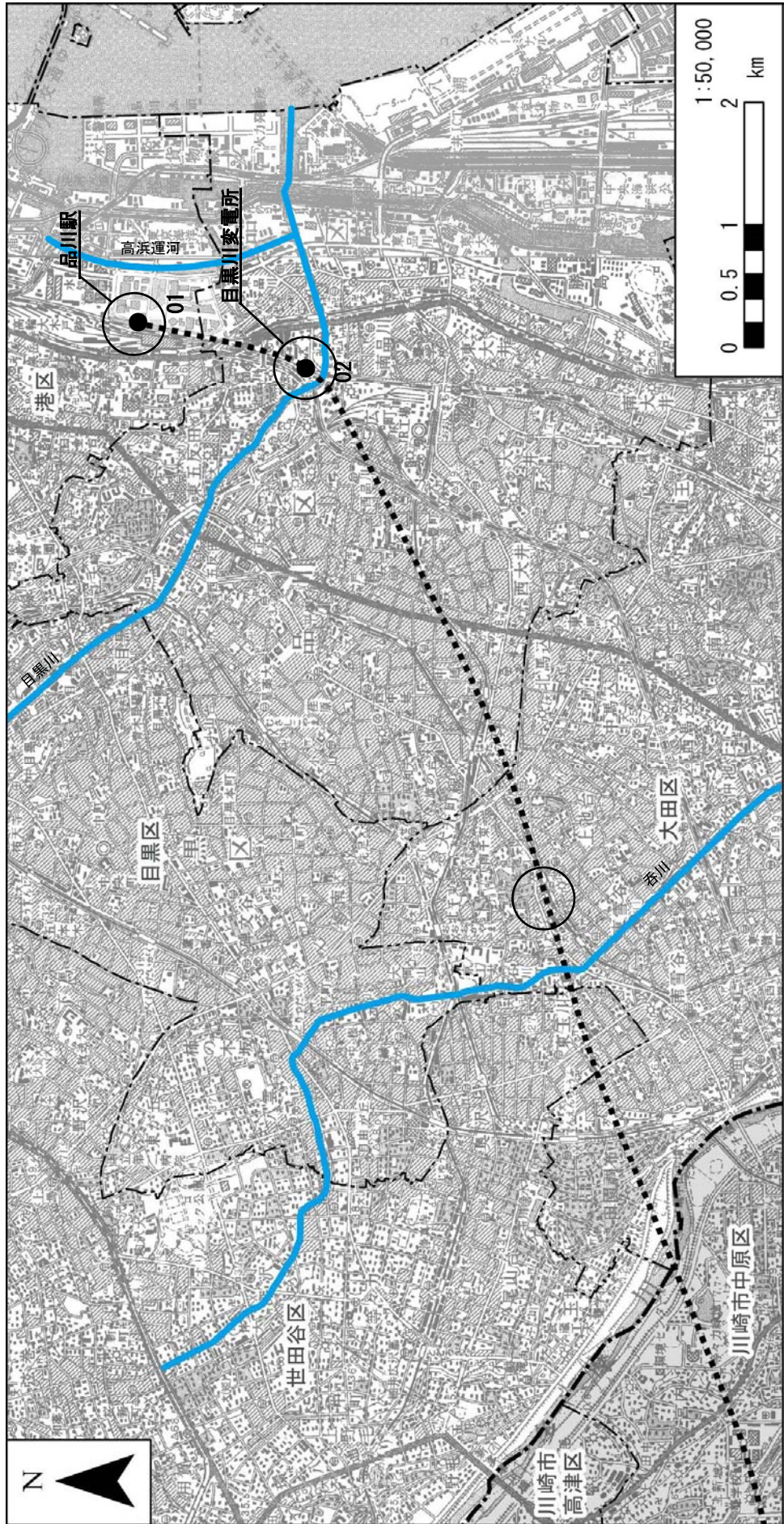
地点番号	区名	所在地	計画施設	調査期間	調査期間中の主な工事内容
01	港区	港南	地下駅	平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月	掘削・支保工の準備工、仮受工等
02	品川区	北品川	変電所	平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月	地中連続壁工、掘削工の準備工、構築工等

② 調査地点

調査地点を、図 4-1-1 に示す。

③ 調査方法

調査方法は、現地確認及び工事関係等の資料の整理とした。



凡例

- 計画路線（トンネル部）
- ~~~~~ 河川・運河
- 調査地点
- 都県境
- - - - 区市境

※本調査は01、02地点で実施した。

図 4-1-1 調査地点（水質：水の濁り）
[環境保全措置]

3. 調査結果

(1) 事後調査の結果の内容

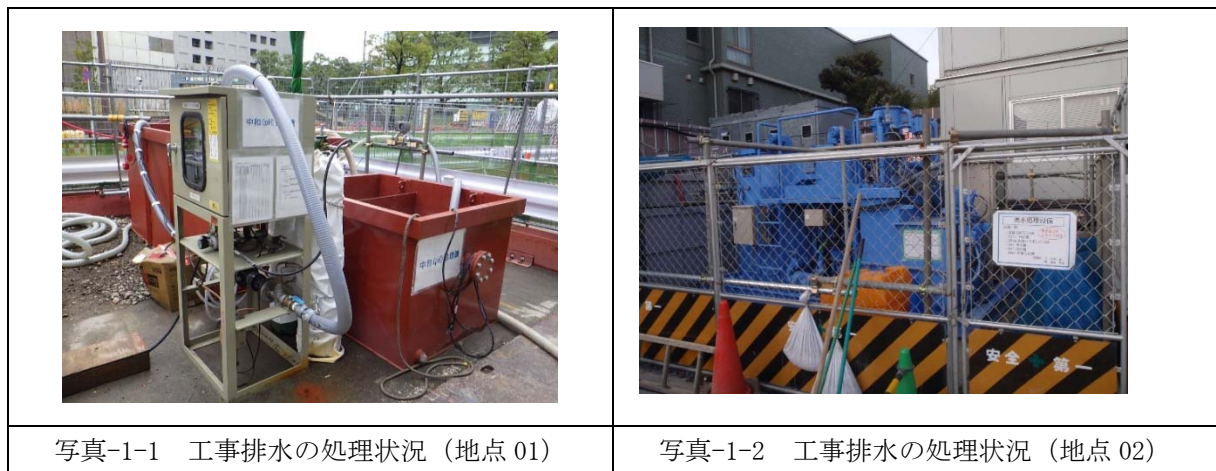
① 環境保全措置の実施状況

工事の施行中の環境保全措置の実施状況を、表 4-1-2 に示す。

なお、平成 29 年 4 月から平成 31 年 3 月までの間、水質に関する意見等はなかった。

表 4-1-2 環境保全措置の実施状況

環境保全措置	実施状況
工事排水の適切な処理	【全地点】 工事により発生した水は、下水道の管理者と協議して処理方法を確定し、処理したうえで下水道へ排水したことで、公共用水域への影響を回避又は低減することに努めた。(写真-1)
工事排水の監視	【全地点】 下水道へ排水するにあたり、濁水処理設備にて工事排水の水の濁りを監視し、処理状況の定期的な確認により、水質管理を徹底したことで、公共用水域への影響を低減することに努めた。
処理施設の点検・整備による性能維持	【全地点】 下水道へ排水するにあたり、濁水処理設備の点検・整備を確実にを行い、性能を維持することにより、工事排水の処理を徹底したことで、公共用水域への影響を低減することに努めた。
下水道への排水	【全地点】 下水道の管理者と協議して、下水放流基準を満足したうえで下水道へ排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減することに努めた。



(2) 環境影響評価書の予測結果と事後調査の結果との比較検討

工事の施行にあたっては、環境保全措置として「工事排水の適切な処理」、「工事排水の監視」、「処理施設の点検・整備による性能維持」及び「下水道への排水」を実施し、公共用水域の水の濁り防止に努めた。

以上より、予測結果のとおり、切土工等又は既存の工作物の除去に係る水の濁りの影響は小さかったものと考えられる。